

## ★ スクミリンゴガイの対策を行いましょー！！ ★

昨年の水稲では、暖冬によりスクミリンゴガイ（通称：ジャンボタニシ）の越冬数が多くなったと考えられ、本貝による被害が目立ちました。今年も、発生地域では多くの貝が越冬していると考えられますので、被害を抑制するための対策を進めてください。

### 1. スクミリンゴガイの越冬状況等

- (1) 3月下旬に、亀岡市内の発生水田において、越冬環境が良いと考えられる部分の表土から深さ5cmについて、1㎡×3カ所を掘り返し調査したところ、越冬したスクミリンゴガイ1頭を確認した。
- (2) 上記水田に隣接する排水路に堆積した土壌について、0.25㎡×1カ所を掘り返し調査したところ、越冬した本貝10頭を確認した。
- (3) 越冬貝の大きさは、殻高13mm～24mmの範囲で、平均19.7mmと、越冬しやすいとされる殻高1～2cmの貝が大半を占めた（表1、図1）。
- (4) 府内における発生地域（図2）に近いアメダス地点における冬期の気温を比較したところ、1月は平年より低温であったが、2月以降は平年より高い気温で推移した（表2）。
- (5) 1月の低温に遭っても本貝の越冬を確認したこと、2月以降が高温である事より、早期から本貝の被害に対する警戒が必要な状況である。

### 2. スクミリンゴガイの生態

- (1) 水温14℃以下では活動を停止し休眠するが、15℃～35℃で摂食活動を行うため、遅植えの作型で被害を受けやすい。
- (2) 3～4葉期までのイネは食害を受けやすく、5葉期になるとほとんど食害されなくなる。
- (3) 水深が深くなりやすい部分（取水口・排水口の付近や畦際付近）は、被害

を受けやすい。また、均平化できていない凸凹の水田では、浅水管理が困難で、水深が深くなる場所に貝が集まり、被害を受けやすい。

### 3. 防除上の注意事項

- (1) 水路で発生している場合には、水田の取水口に金網やネット（図3、目合い9mm程度）を設置し、水田内への侵入を防止します。
- (2) 前年発生があったほ場では、田植え前に水田内をよく観察し、貝の発生（図4）を確認した場合には効果が高い薬剤を散布して被害を防止します。使用に当たっては、散布後の止水等、農薬の容器に記載された使用方法を遵守してください。

#### 効果が高い薬剤の例

メタアルデヒド粒剤	本貝に対する誘引性があり、摂食による殺貝効果がある。
磷酸第二鉄粒剤	有機 JAS 規格に適合し使用回数に制限がなく、摂食による殺貝効果がある。
チオシクラム粒剤	徐々に溶け出し、多雨時でも本貝へのマヒ効果が見込め、食害防止効果がある。

- (3) 発生を確認した水田では、田植え後約3週間は水深を4cm（理想は1cm）以下に維持する浅水管理を行います。田面に凹凸があり、水深が深い部分が残る場合は、薬剤散布と併用してください。
- (4) 水田内または水路で本貝の卵塊（図5）を発見したら、掻き取って廃棄します。なお、本貝及び卵塊には人体に有害な寄生虫が寄生しているばあいがあるので、直接素手で触れないなど取り扱いには十分注意してください。

表1 越冬スクミリングガイの殻高  
殻高 (mm)

19.7 ± 3.07
-------------

※1：調査地点は昨年本貝が発生した亀岡市内の水田及び隣接排水路

※2：試料採取日 令和3年3月26日、調査員数 (n) =11

※3：±の後の数値は標準偏差



図1 採取した越冬貝

表2 スクミリンゴガイ発生地に近いアメダス地点における2021年1月～3月の半旬別気温の経過

アメダス地点	京田辺					京都					園部					
	半旬平均気温 (°C)				半旬最低 気温(°C)	半旬平均気温 (°C)				半旬最低 気温(°C)	半旬平均気温 (°C)				半旬最低 気温(°C)	
	日平均気温		日最低気温			日平均気温		日最低気温			日平均気温		日最低気温			
	2021年	平年	2021年	平年	2021年	2021年	平年	2021年	平年	2021年	2021年	平年	2021年	平年	2021年	
1月	第1半旬	3.5	4.3	-1.9	-0.2	-3.7	4.2	5.2	0.8	1.7	-0.8	0.8	2.4	-4.0	-1.6	-5.4
	第2半旬	1.5	4.1	-3.8	-0.5	-6.6	1.7	5.0	-2.0	1.5	-4.1	-1.0	2.1	-6.9	-2.0	-10.0
	第3半旬	3.1	3.9	-2.8	-0.6	-4.0	4.6	4.8	0.2	1.4	-1.0	1.2	2.1	-3.5	-2.1	-6.8
	第4半旬	3.9	3.7	-1.0	-0.8	-3.7	4.7	4.6	1.8	1.2	-0.7	1.9	2.2	-3.2	-2.0	-6.3
	第5半旬	6.9	3.4	3.4	-1.1	-4.3	8.0	4.3	5.2	0.9	-0.4	5.9	2.2	1.8	-2.2	-6.0
	第6半旬	6.6	3.2	1.0	-1.3	-1.1	7.1	4.1	3.4	0.6	0.0	4.7	2.3	-0.1	-2.3	-2.8
2月	第1半旬	5.0	3.4	-1.4	-1.3	-3.1	6.2	4.2	1.6	0.7	-0.2	3.5	2.4	-3.1	-2.2	-5.4
	第2半旬	5.6	3.8	0.6	-1.0	-0.6	6.8	4.7	2.9	1.0	0.8	4.0	2.9	-1.0	-1.9	-2.2
	第3半旬	10.1	4.3	3.5	-0.6	1.4	11.5	5.2	6.4	1.4	4.1	8.1	3.5	1.6	-1.4	-0.9
	第4半旬	4.9	4.6	0.1	-0.3	-2.1	4.9	5.4	1.0	1.6	-2.2	2.4	3.9	-2.8	-1.2	-5.4
	第5半旬	8.2	4.9	0.1	-0.1	-3.7	9.5	5.8	3.9	1.9	0.3	6.4	4.4	-1.4	-0.6	-4.5
	第6半旬	6.4	5.3	0.5	0.2	-0.9	7.5	6.1	3.6	2.1	2.3	4.6	4.7	-0.9	-0.2	-3.6
3月	第1半旬	9.6	5.7	3.2	0.5	-0.4	10.3	6.5	5.4	2.4	2.3	8.3	4.8	1.9	0.0	-2.2
	第2半旬	8.3	6.3	2.2	1.0	-0.7	9.2	7.2	4.9	2.9	2.4	6.8	5.2	1.5	-0.1	-1.8
	第3半旬	9.6	7.1	3.5	1.6	-1.2	10.7	8.0	5.8	3.6	2.0	7.6	5.9	1.2	-0.1	-2.8
	第4半旬	11.4	7.9	2.8	2.2	0.0	11.9	8.8	6.1	4.2	3.3	9.0	6.7	0.9	0.4	-1.2
	第5半旬	10.8	8.5	5.2	2.8	0.7	11.8	9.5	6.7	4.8	3.2	8.9	7.3	2.6	1.0	-0.7
	第6半旬	14.0	9.3	7.8	3.5	2.3	14.9	10.3	10.0	5.6	5.6	12.0	8.0	5.3	1.6	0.6



図2 京都府内のスクミリンゴガイ発生市町村 (2020年、農産課調べ)



図3 水路に設置されたネット  
(農林水産省スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植水稻)より)



図4 水田内のスクミリンゴガイ



図5 イネに産み付けられた卵塊